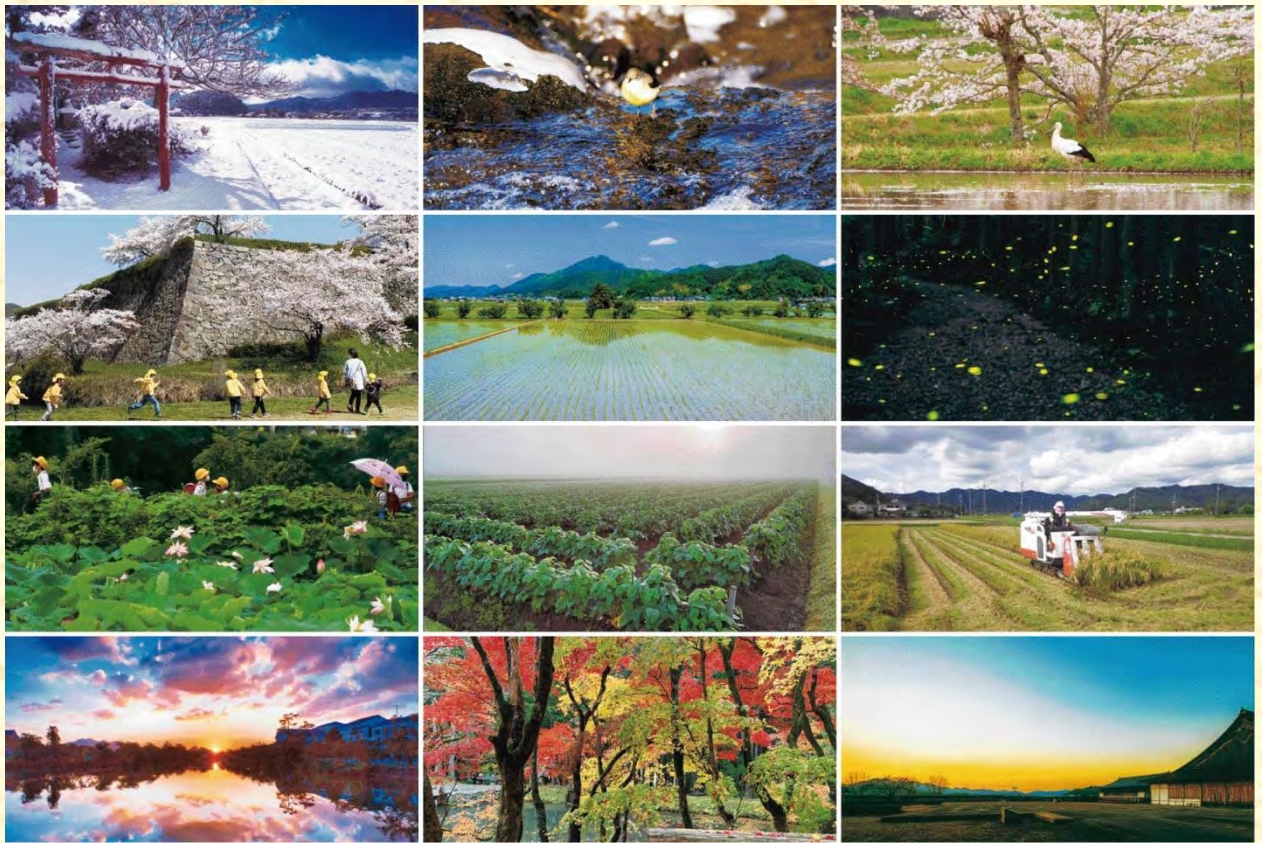


2022

# JA丹波ささやまの自己改革

～次代の農業とくらしを支えるJAをめざして～



丹波ささやま農業協同組合

Agricultural Co-operatives TanbaSasayama

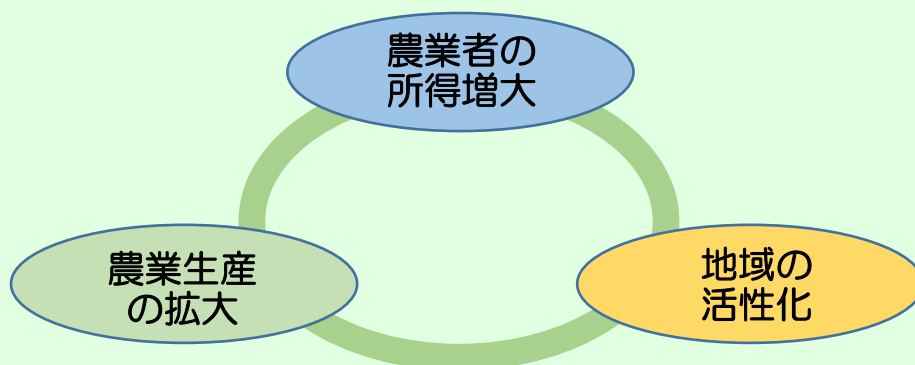
## ■ J A丹波ささやま自己改革の取り組みについて ■

### 1. 自己改革の考え方について

J A丹波ささやまは、豊かな暮らしと元気なふるさとづくりに貢献するため、丹波篠山独特の気候・風土・歴史と伝統に培われた「農」を基軸に、安全・安心な「食」の提供、「地域」の暮らしに必要な事業を総合的に展開し、組合員・地域の皆さまから愛され頼りにされるJ Aであり続けるために、県内14J Aや全国のJ Aの仲間とともに、「自己改革」の実践に取り組めます。

### 2. J A丹波ささやまにおける自己改革の取り組み

J A丹波ささやまでは、自己改革の取り組みを「次代の農業と暮らしを支えるJ Aをめざして」を経営方針とし、自己改革の柱である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の基本目標達成に向け、中でも重点的に取り組む施策を「第7次中期計画」に織り込みながら、組合員や地域の方々のご意見を聞きながら着実に進めてまいります。



## 1. 経営理念

### 「J A丹波ささやまは、豊かな暮らしと元気なふるさとづくりに貢献します」

私たちのふるさとには、伝統と文化に育まれた特産物とそれを支える人々の暮らしがあります。

また、この素晴らしい自然に憧れて住人になった人も多くみられます。

J A丹波ささやまは、これら人々の様々な夢・想いを真摯にとらえ、J Aのもてる多彩な事業機能や相談活動でお応えし、自然と人が調和する豊かな暮らしと元気なふるさとづくりに貢献します。

暮らし……「豊かさ」と「潤い」と「安心」を創造し

ふるさと……「農」と自然を通じたふれあいを大切に

J A……あらゆるサービスの提供により元気なふるさとづくりに取り組みます

## 2. 経営方針



### 「次代の農業と暮らしを支えるJ Aをめざします」

～J A丹波ささやまは組合員の皆さまとともに取り組みます～



### 3. JA丹波ささやま 自己改革ハイライト (令和3年度)

JA丹波ささやまは、豊かな暮らしと元気なふるさとづくりに貢献するため、丹波篠山の気候・風土・歴史と伝統に培われた「農」を基軸に、安全・安心な「食」の提供、「地域」の暮らしに必要な事業を総合的に展開し、組合員・地域の皆様から愛され頼りにされるJAであり続けるために、「次代の農業と暮らしを支えるJAをめざします」をテーマとする第6次中期経営計画を基本にJA自己改革に取り組みました。

その中で、「農業づくり」「地域づくり」「人づくり」の基本目標達成に向けた、令和3年度の主な取り組み状況を紹介します。

#### 持続可能な農業の実現をめざす農業づくり



##### 重点施策 農業者の所得増大と農業生産の拡大

###### □ 取り組み状況



- 新しい生産技術の導入試験と安全安心な農作物の安定かつ高品質生産に取り組み、消費者・地域住民に信頼され支持される振興作物の生産拡大に取り組みました。



項目	令和3年度実績	令和2年度実績
米	107,362 袋	107,632 袋
黒大豆	73.7 t	135.0 t
山の芋	84.4 t	106.3 t
黒枝豆	59.9 t + さや 10.0 t	64.2 t + さや 6.7 t
粟	21.3 t	46.0 t
大納言小豆	4.4 t	6.8 t
うすいえんどう【面積】	0.9ha	1.2ha
ピーマン【面積】	0.7ha	0.7ha
デカンショ豆	11.0 t	—

##### 重点施策 地域の実態をふまえた担い手の育成・支援

###### □ 取り組み状況



- TAC（営農相談員）を中心に関係機関と連携し、新規就農者の支援のため、U・Iクラブ丹波篠山黒豆スクール・丹波篠山山の芋スクールを開催し、就農者の育成支援に取り組みました。

・黒豆スクール 8名・山の芋スクール 15名

- いきいき農村女性オペレータースクールを開催し、基本的な運転操作の講義を行うことで、農業事故未然防止や女性就農者の支援に取り組みました。



**重点項目** 営農経済事業体制と機能の強化



□ 取り組み状況

- 営農経済事業再編について、地区別事業説明会の開催や広報活動を通じてご案内いたしました。
- 新型コロナウイルスの感染拡大防止策に準拠した黒豆・山の芋スクールを行い、栽培技術の向上に取り組みました。
- 青空教室の代わりとして、水稻、黒大豆、山の芋、大納言小豆の品目ごとの栽培資料の配布を行いました。また、動画を作成し、動画配信サイト「YouTube」を通じて生産者に配信を行いました。

地域に「共感」きる協同活動の展開による地域づくり



**重点施策** 組合員アクティブ・メンバーシップの確立



□ 取り組み状況

- 新型コロナによるイベントの中止が相次ぎ、積極的な活動が行えませんでした。女性会活動については、感染防止に配慮し随時活動を再開しました。
- 窓口と金融渉外、L Aによる非対面取引拡充のため、J Aネットバンク、J Aバンクアプリ、WEBマイページのご案内を行い、次世代との関係強化に取り組みました。
- 地域のまちづくり協議会と協力し、稲刈り教室を開催して地域の児童との交流を通じて、食の大切さを学ぶ機会を提供しました。

**重点施策** 総合事業を通じた生活インフラ機能の発揮



□ 取り組み状況

- H I Sと提携し、行政と合同で「丹波篠山黒枝豆」のオンラインツアーを開催し、美しい田園風景や黒豆の魅力について紹介を行いました。
- 新型コロナウイルス感染症対策に携わる医療従事者の方々に感謝の気持ちを込めて、「丹波篠山茶」800袋を贈呈しました。
- 農業メインバンク機能強化に向けて、信用部門と営農経済部門が連携し、出向く体制を強化して農業融資相談等の訪問活動に取り組みました。
  - ・農業資金… 32件 101,179千円
  - ・住宅ローン… 76件 1,689,280千円
  - ・小口ローン… 178件 294,400千円

## 重点施策 くらしの活動による「共感」を営む地域づくり



### □ 取り組み状況

- 地域の皆さまの2,244ピースの夢・希望・思いを集めたモザイクアートを作成し、コロナ禍で活気のない状況が続く地域に少しでも元気や勇気をお届けする活動を行いました。
- 地元の幼稚園児が描いた絵の展示や、バルーンアートのプレゼント、児童クラブでの消防訓練など、支店を通じた様々な地域貢献活動に取り組みました。
- 厚生連、丹波篠山市と連携し、まちぐるみ健診の受診啓発と普及率の向上に取り組み、地域の暮らしを守る活動を行いました。

(令和3年度まちぐるみ健診受診者総数 3337人)

## J A 経営基盤の確立を担う人づくり



## 重点施策 自己改革の実践を支える執行体制の強化と経営計画の策定



### □ 取り組み状況

- 本年度、6名の職員をむかえ、新たなJ Aを担う人材の確保に取り組みました。また、WEBによる就職説明会を開催し、新しい人材の確保に取り組みました。
- 総合事業を基本としたJ A経営基盤の確立・強化によって、さらなる地域への貢献と安定的な事業利益の確保に向け、「J A事業活動のお知らせ」を配布しアンケートによる意見の集約を行いました。
- 各種会議等で部門別損益の状況を共有し、継続して事業利益及び専属損益を意識した事業活動を行う意識づけを行い、具体的な収支改善策の策定に取り組みました。

## 重点施策 協同組合運動を牽引する人材育成と働きがいのある職場づくり



### □ 取り組み状況

- 地元の高校で、J A職員が地元就職の魅力を伝える出前講座を行い、J Aの魅力伝える活動を行いました。
- 働き方改革のもと、各職場でワークライフバランスに対する理解を深め、働きがいのある職場づくりに取り組みました。
- 地域美化作業の参加や、自己啓発の取り組みとしてeラーニング（インターネットを利用した学習形態）の受講を啓発し、自主的・自発的に行動できる職員の育成に取り組みました。
- 自動車交通安全講習や防犯・防火訓練、救護訓練を開催し、緊急時に迅速に対応できる職員の育成に取り組みました。

JA丹波ささやまの  
事業活動

「JA丹波ささやまは豊かなくらしと  
元気なふるさとづくりに貢献します」



『丹波篠山』ブランドを守るためには…

私たちのふるさとは、伝統と文化に育まれた特産物とそれを支える人々の暮らしがあります。また、この素晴らしい自然に憧れて住人になった人も多くみられます。

JA丹波ささやまは、これら人々の様々な夢・想いを真摯にとらえ、JAのもてる多彩な事業機能や相談活動でお応えし、自然と人が調和するふるさとづくりに貢献したいと考えています。

これは、経営理念である「JA丹波ささやまは、豊かなくらしと元気なふるさとづくりに貢献します」の基本的な考え方です。

JA丹波ささやまは、永年に亘って『丹波篠山』の特産物を丹波篠山ブランドとして守り育てる取り組みを続けてきました。

そのひとつに、販売戦略上のJA丹波ささやま独自の選別規格

(選別基準)があります。この厳格な選別規格を維持して守ることによって、消費者の信頼を得ることができているのです。この取り組みが『丹波篠山』の知名度を活かしたブランド力と特産物の販売力の強化となり、さらに農家手取り向上につながる有利販売の実現につながっています。

こうした取り組みを続けていくためには、生産や出荷段階からの品質確保に向けた農家組合員のみなさまのご尽力が不可欠です。

農家組合員のみなさまには、JA丹波ささやまの取り組みにご理解とご協力をいただき、農産物・特産物の全量JA出荷を今後ともよろしくお願いいたします。

丹波ささやま農業協同組合

〒669-2212 兵庫県丹波篠山市大沢 438-1

TEL:079-594-1121/FAX:079-594-2282

URL:https://www.ja-tanbasasayama.or.jp